



第186号  
 令和6年10月1日  
 編集発行 全国良寛会  
 〒951-8112 新潟市中央区南浜通2  
 北方文化博物館新潟分館内  
 (振替00620-0-1545)  
 お問い合わせ先 理事 本間 明  
 Tel 090-2488-8281  
 印刷所 株式会社ウイザップ  
 (発送元) Tel 025-285-3311

「月下読書の図」小川千甕・画

幼いころより、良寛が読書好きであったことを伝える逸話の一場面。金踊りの日、母は「踊りに行きなさい」と半ば強引に送り出す。日が落ち庭に怪しい人影。なぎなたを持ち近づくと、いたのは深蔵（幼名）で、そこでずっと本を読んでいた（出雲崎町・良寛記念館蔵）



おがわ・せんよう (1882~1971年)

京都の本屋に生まれる 15歳から仏画師を志す傍ら浅井忠に西洋画を学ぶ  
 日本画もたしなむ 芭蕉・蕪村・良寛を研究

リレーエッセー 良寛つれづれ35

良寛さんが息づく新潟県

花角 英世

(新潟県知事)

新潟県知事として県政に携わるなかで、新潟県民は「まじめで忍耐強い」と県外の方から評価する声を幾度もいただいたてまいりました。こうした気質を育んだ要因の一つとして豪雪の風土以外に、地域に深く根付いている良寛さんの教えがあるのではないかと感じています。

良寛さんは禅僧・歌人・書家として学芸に秀でた人物でありながら、山中の粗末な庵に無一文で暮らし、托鉢行による清貧の生涯を過ごされました。慎ましい暮らしの中で、自然や子どもたちを慈しみ、広い心であるがままを受け入れるあり方は、今でも多くの人から敬愛の念を抱かれております。良寛さんの教えは言葉だけでなくそのあり方で、親から子へ子から孫へと脈々と受け継がれ、今日を生きる私たちの心の中に息づいているのではないのでしょうか。

全国良寛会の皆様のますますの御活躍によって、新潟の偉人良寛さんを愛する人の輪がより一層大きなものとなり、心温まる御縁が広がり続けていくことを心から願っております。